

山の百の花

赤石 孝

【41】ハクサンイチゲ

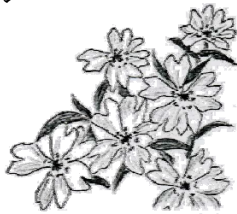
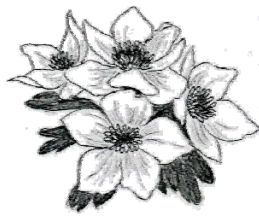
「ハクサン」を冠せられる山の花は多い。ハクサンイチゲ、ハクサンユザクラ、ハクサンシヤクナゲ、ハクサンフウロといずれもよく知られた花なのに、バックナンバーをチェックしてみたところ、この欄で一度も取り上げられていないことが判明した。

山野草の事典によると、ハクサンイチゲはキンポウゲ科イチリンソウ属の多年草である。北海道、本州（東北地方）に分布、高山の草原に咲くと説明されている。

ハクサンイチゲとインプットされて、まっ先に頭に浮かぶのは、利尻岳だ。朝5時に宿を出てバスで送ってもらい、北麓野営場から歩き始める。エゾマツ、トドマツの森を抜け、灌木帯に入る。登りきれば長官山、少し下って避難小屋を過ぎ、最後の登りにかかる左側斜面がお花畑になっている。白い花が見えれば、それはハクサンイチゲだ。登山道の脇にも咲いている。白の色が濃いか鮮やかというか、存在感のある白だと思ふ。一本でも風にゆれてい

たりすると見応えがあるが、群生していることも多く、目立つ花だ。

利尻岳の次に思いつくのは雨飾山。05年6月に登った。この年は残雪が多く、雨飾温泉からのコースは上半で軽アイゼンを使った。笹平に抜けるとホッとす。山頂にむかう登山道の脇にハクサンイチゲが群生している。その向こう、足下に深く切れ込んだ根知川の対岸に西海谷山稜がっらなっている。山稜のギザギザをまっ白な花が際立たせていた。



【42】タカネビランジ

ベストセラーというのは凄、凄いけれども句が過ぎてマスコミが取り上げなくなると、並みの人の目に止まることはなくなる。「マークスの山」といって、「あの本ネ」と分る人が何人いるだろうか。本としても面

白かったが、ぼくの記憶にとどまった最大に理由は、タカネビランジが登場していることだった。

ナデシコ科マンテマ属、本州、特に南アルプスの岩場に自生する多年草。ずい分昔に、荒川三山から赤石岳へと縦走したとき、千枚岳からの下りで見た。正確には見たはずなのだ。ご一緒した方があそこに咲いていたと話していたから。

タカネビランジといえば、いまや鳳凰三山であると思っている。8月半ばに登れば絶対に出会える。ということの数年前の8月半ばに計画した。1日目は御座石鉱泉から燕頭山を越え、鳳凰小屋をめざす。訪れる度に小屋のオーナーの細田倅市さんがキノコを持っていらつしやいと云ってくれる。雑キノコを採ってビニール袋に入れ、小屋まで運び上げると、小屋の前にキノコがひるげられて、にわかキノコ教室が始まる。

細田さんが選別してくれて、食べられるキノコがソテーにされ、憩いのひとときのツマミに供される。そして翌日、ひと登りすると花崗岩の白砂の山肌にピンク色のタカネビランジが出迎えてくれるのだ。